

「祖父の手と仕事の大変さ」

出雲市立塩冶小学校 四年 井上 優真

「こんな汚い手はいやだ」

昨年皮がボロボロにおけた祖父の手のひらを見てぼくはこんな風に言ってしまった。祖父は笑って「いたけれど、なんていひい事を言っってしまった。たしかと今でも後悔している。」

ぼくの祖父は酪農としていて毎日牛の世話をしていいる。牛は百頭位いて乳しぼりをして牛乳を出かしている。他にも牛のふんを糞こ

うさせてひ料にし売り物にする仕事や、畑がいくつもあった、エサにする牧草を育てて収穫したりし、毎日牛に関わる仕事をしていいる。

特に牛の世話は大変そうで、牛舎の掃除が牛のえさやり、乳しぼりは朝と夜の2回ないていけない。いつも同じ事をして同じ時間に仕事が終わればいいけれど、器械がこわれたり、牛が病気になつたり、子牛が産まれたり色々な事が起こるので、朝も夜もいつも遅くなつてから家に帰ってくる。

祖父の家に遊びに行っても、ぼくが起きる
ともう祖父はいない。ぼくの起きるすゝと前
に起きて仕事を始める。ぼくが朝ご飯を食べ
てのんびりしている間も朝ご飯も食べずに作
業をしている。かつ、家に帰ってきたと思っ
たらもうお昼だ。ゆづくり休むひまもなく数
時間後には夕方の仕事を始めるためにまた牛
舎へ行つてしまふ。そこからぼくが寝る時間
まで帰つてこない。家でゆづくりしている姿
なんてほとんど見かけないし、家についても疲
れて眠そうで、一緒に出かけたり遊んだりで
きないのでもつまらないなあと思つてしまふ。

そんな祖父の手のひらや足のうらの皮がボ
ロボロにおけてたくさんむびわれていた。色
々試してみただけで全く良くならず、いつも痛
い痛いって言いながら仕事をしていた。病院
では手を休ませるよりに言われたらしいけれど
生き物を飼う仕事に休みなんてない。水仕事
や力仕事を続けて治るはずもない。痛くて休
みたいはずなのに、そんな祖父の気持ちも考

えずに「汚い手」なんて言っ
ていたけど祖父の困ったよ
うな悲しそうな顔を見て自
分がともなさけなくなった。

ぼくは最近しよう来の仕事
について考えている。どんな
仕事があるのか、今までは何
も知らず目標もなかったの
で、周りにある仕事や働く
人達の大変さを考える事も
なかった。祖父の手のひろ
には毎日休みなく働く仕事
の大変さがまつているよ
うな気がした。ぼくの周り
は仕事をしていている人達
のおか

げで暮らせる物ばかりなん
だと分かった。まだ自分のし
よう来の仕事について決め
られないけれど、誰かのた
めには、誰かが喜んでくれ
るよくなる仕事をしたと思
えるようになった。

この前祖父のきれいになっ
た手のひらを見た。祖父の
大変さと仕事への熱心さが
伝わってきた。今度祖父の
所へ行ったら手伝いをし
て、仕事の大変さを体で実
感しようと思う。そして、
酪農という仕事を応援して
あげたいと思った。